



当時の石垣が残る今和泉島津家屋敷跡（指宿市）

人物です。その「篤姫」が平成20年の大河ドラマの主人公に決定し、鹿児島県では、この「篤姫」放映を観光の起爆剤にし、「観光かごしま」の魅力を全国にPRすることにしています。加えて3年半後の平成23年春には、待ちに待った九州新幹線鹿児島ルートの全線開業が迫っていることもあり、鹿児島県はいま、「観光発展戦略プロジェクト」を推進しています。

このプロジェクトでは誘客のための「観光かごしま大キャンペーン」を開催、観光ルート整備などの「魅力ある観光地づくり」を目指しています。つまり、来年に向けて県の観光誘致活動は、「篤姫」とその後の「新幹線」が両軸となり、展開されようとしているのです。ソフトとハードの両役者がそろった、まさに千載一遇のチャンスとして力を

天璋院篤姫。天保6年（1835年）に今和泉島津家島津忠剛の長女として生まれ、やがて薩摩から江戸に上り江戸幕府第13代将軍徳川家定の正室となります。激動の幕末から明治にかけて激変する時代を見据えていた

人物です。その「篤姫」が平成20年の大河ドラマの主人公に決定

入れています。

篤姫関連プロジェクトの展開

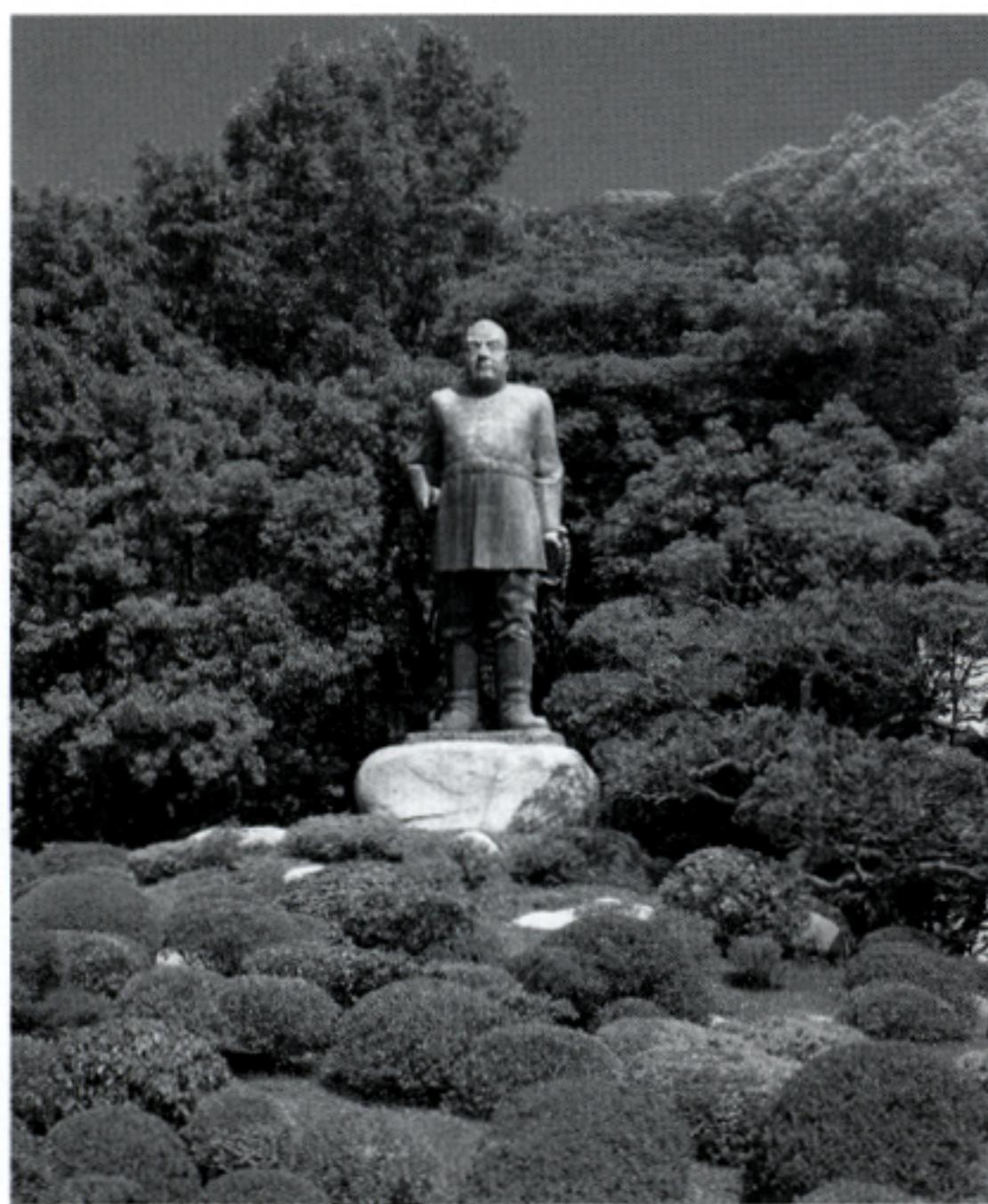
篤姫関連の事業としては、大河ドラマの放映効果を最大限に生かすために、関係機関と連携



篤姫が2カ月余り過ごした鹿児島（鶴丸）城趾

「篤姫」と「新幹線」で

鹿
児
島
県



※西郷隆盛銅像

したキャンペーンを展開するとともに、魅力ある観光地づくりの一環として「篤姫ゆかりの地の整備」を進めようとしています。

例えば、鹿児島市と共同で、大河ドラマを素材にした「篤姫館」を設置運営し、ドラマで使用された衣装などを展示します。県民への情報発信として、県内各地での「篤姫」のパネル展や関連文化講演会なども開催します。受入体制づくりとしては、「篤姫」ガイド養成講座の開催や「篤姫」観光ルートの開発等で、鹿児島にもう一泊してもらうための「One More Stay キャンペーン」も試みます。

九州新幹線鹿児島ルートは、鹿児島市から熊本県八代市までの部分開業がなされただけという変則状態にあります。それだけに地元から喉から手が出るほど期待されているのが鹿児島ルートの全線開業です。この開業を射程において、効果的な観光誘客活動を思い切り進めたい

新幹線開業とつなぐ 観光地づくり

折しも本年は、鹿児島の偉人西郷隆盛の没後130年・生誕180年の記念すべき年にあたります。9月には「西郷どんウイーク」としてさまざまな記念イベントが催されたほか、映画「俺は、君のためにこそ死ににいく」が上映され、改めて戦時下、特攻基地であつた知覧がクローズアップされています。最近の日本人の、とりわけ退職の始まった団塊の世代にとっては、このような「歴史」また「文化」への志向はかなり強いと言われ、昨今の鹿児島におけるこうした素材とその観光振興への工夫には、大きなポテンシャルがあるといつてよいでしょう。



※新幹線と桜島

具体的にこの機運を受けた観光地づくりのための事業をいくつか見てみましょう。「かごしまよかとこ100選」は、テマごとに身近にある観光資源の魅力を再発見しようとの事業です。平成18年度は「四季の旅」「浪漫の旅」、19年度は「躍動の旅」「海道の旅」、20年度は「食彩の旅」といったテーマで選定し、最終的に各テーマから「ベスト100」を選び県内外に広くPRするといったきめ細かい試みです。新観光資源としての商品開発にも工夫しようとしています。最近では着地型観光プログラムづくりとして、「よかとこ

さるつかた(まち歩き)」事業や、志布志や奄美大島などの「よかとこ体験プログラムづくり」

モデル事業なども行われ、いざれも観光アドバイザーの派遣などにより、観光地づくりを支援することとされています。加えて観光地の人づくり支援にも力を入れ、研修会の開催などにより、観光ボランティアガイドや語り部の発掘や育成を進めようとしています。これは「よかとこ案内人」育成事業という試みであり、その呼びかけに既に反応は大きいと言われています。

ちなみに鹿児島県ではPRマインドとして、「おもてなしの心」を持つことを重視しており、その心の醸成を県民運動として位置づけ、具体的な「観光まごころ県民運動」として展開しています。まごころ 笑顔おもてなし」をスローガンに、集中的な広報啓発を行っていることも注目されてよいでしょう。

外誘致の強化を図るため、国が進めるビジット・ジャパン・キャンペーん(VJC)とも連携して、各種の誘客促進活動、受け入れ体制の整備にも力を入れています。

鹿児島県としての海外からの誘客対策として、官民一体となり、韓国、中国、香港、台湾において現地旅行エージェント等への誘客セールスを行っているほか、海外の旅行エージェントやマスコミ関係者を本県に招待する事業も行っています。さらには、海外の新聞や雑誌等のマスコミとタイアップし、本県観光の知名度アップを図るとともに、特に韓国では、ケーブルテレビや映画館において観光PRのCM放映にも取り組んでいます。

特にユニークな試みもあります。「スポーツ観光王国かごしま」確立事業です。

スポーツキャンプ・合宿について、誘致から歓迎まで一体となつた取り組みを実施するとともに、キャンプ等の参加者および観戦者への観光PR活動を進めることにも力を注いでいます。

スポーツ観光王国かごしま 確立事業

めています。

YOKOSO!
KAGOSHIMA事業

もちろん観光振興は「篤姫」と「新幹線」にとどまりません。海

韓国、中国、あるいは香港、台湾といった各国の嗜好に合ったルートや観光資源を紹介する、国別のガイドブックの作成も進



※マングローブ群生地(奄美市)



※桜島空撮(鹿児島市)

活性化を図ろうという思惑もあります。同時に、利用率の低い運動施設を滞在型のスポーツ合宿施設として活用することで地域の活性化することが期待されるのです。

②誘致歓迎対策として、「かごしまスポーツ合宿ガイド」を作成し、単なるスポーツ施設の紹介だけでなく、合宿で使える宿泊施設やコンビニ・コインランドリー情報まで提供しています。今年度は、さらに地域の特産品などの情報も盛り込むなど、バージョンアップした形での作成を検討しています。誘致活動としては、関東・関西・福岡などにある大学や実業団チームに対して、スポーツ合宿の誘致活動を行っています。昨年度は合宿にきたプロ野球チームやJリーグ、韓国のプロ野球チームに対して、激励の意味を込め全

この取り組みは、他の季節に比べ観光客の入り込みが落ち込む冬季の観光客確保対策として行うという側面があります。さらに、「プロスポーツの春季キャンプ」を観光資源として磨き上げることで、県内外の観光客を増やし、キャンプ地周辺の観光や特産品購入などで地域が活性化することが期待されるのです。

①体制整備・活動促進の取り組みがあります。各市町村や既存組織との連携を図る「地域連絡会」を軸に、その活動を強化することとし、将来的には行政ではなく県全体をカバーする民間主体の「協議会」に移行させようとしています。

「力みなぎる・かごしま」が県政の基本的な考え方だと言われます。そういえばナポリ市は鹿児島市と姉妹都市となっています。以前イタリアを訪れナポリの街を散策したり、鹿児島通りと名づけられた通りを市の職員に紹介され大いに驚いたものでした。しかし壮大なベスピオス火山と桜島。広大なナポリ湾と錦江湾。太陽の降り注ぐ共通した風景を目の当たりにすると、このふたつの町はまさにみなぎるような力強さを共に抱えていると納得したものでした。

「力みなぎる・かごしま」が今、観光をひとつの中としつつ骨太な地域活性化策を推進していくに違いないことを確信するもので

(編集部 岬津隆文(総括))

※写真協力：(社)鹿児島県観光連盟